

災害時の断水に備えて生活水の確保を

最近では災害時に貯水槽の水を生活水として利用するため、貯水槽本体に蛇口を取り付けている施設をよく見かけます。

マンションやビルの水は、受水槽や高置水槽などの貯水槽にいったん貯めてから給水する方式が一般的でしたが、近年、貯水槽を設置しない増圧給水という方式が増えています。この方式は水を貯めずに直接給水することができますが、災害などによる断水時に水を確保することができません。

一方、貯水槽を使用する給水方式の場合は、断水時でも貯水槽の水を生活水として確保することができます。しかし、停電などにより給水ポンプが作動しなければ、せっかくの水も使用することができません。そのため、災害時に備えて、直接貯水槽に非常用給水栓を設置する施設が増えています。

災害時には東京都水道局により、応急給水場所の「災害時給水ステーション」が都内215か所に開設されます。都内各所に設置される「災害時給水ステーション」は、東京都水道局のホームページや無料スマートフォンアプリ「ロケスマ」で簡単に検索できます。

人間に必要な水の量は1人1日3リットルで、十分な備えとしては、おおよそ3日分の汲み置きが必要とされています。普段からポリタンクなどの水を入れる容器を準備して、自宅や職場の近くにある給水拠点を確認されてみてはいかがでしょうか。

塩素消毒がされている水道水は数日間の備蓄が可能です。そのためにも普段から、貯水槽の衛生的な管理が重要です。水質検査や簡易専用水道の管理など、詳しくは当所へご相談ください。